

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	ウキウキさくらんぼ			
○保護者評価実施期間	2025年2月17日 ～ 2025年3月15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33名	(回答者数)	24名
○従業者評価実施期間	2025年2月17日 ～ 2025年3月15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育スペースが広く確保されている。	勉強、遊び、運動スペースとそれぞれに区分けし、各々切り替えがしやすく次の行動に移しやすい。	運動ができる広いスペースを使い、普段の生活で経験できないことなど子どもたちに未体験の物に触れる機会を考えていきたい。
2	スタッフが充実している。	経験豊富なスタッフが多く、専門スタッフも充実している。集団療育をメインにした事業所ではあるが、子どもたちそれぞれに合わせた療育にも対応できる体制になっている。	専門スタッフの知識を吸収し、常勤スタッフが普段の療育の中でも活かすことができるように学んでいきたい。
3	児童発達支援と放課後等デイサービスが同ビルにあるため、連携がとりやすい。	支援に関しても切れ目なく一貫して行えることから、子どもたちの細かなことなどを担当スタッフからすぐに聞いたり、一緒に行動観察できる。	運動会などの行事を幅広い年代と一緒にを行い、子ども達それぞれに意識の変化を持てるよう取り組んでいるが、普段交流できる機会を増やしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流が少ない事。	利用者に配付している、イベントスジュールの中に組み込めていない。	イベントの中に入れこむ。 警察署や消防署など見学の機会を増やしていく。
2	年齢が高い子どもたちの遊びが少なく、低学年の遊び比率が高い。	高学年のメンバーが少ない事から横のつながりが持ちにくい。その為、遊びの幅が広がらない。	低学年の中でスタッフの介入が必要でない場合は、高学年の遊びの相手をしながら、個人遊びの幅を広げる取り組みをしていく。 必要であれば、個人遊びができるような遊具・玩具または、実験などの持続して取り組めるものを検討する。
3	スタッフの数が多いため、情報共有が全スタッフに行き届かないことがある。	情報共有場所(社内グループLINE)が混在しており、各グループLINEの活用方法についての認識の違いがある。	社内のグループLINEについて、情報を流す内容・場所を共通認識できるよう表を作成する。 情報共有場所を悩んだ時は、その都度検討をして表に追加する。